

研究分野のキーワード：書写書道教育，日本(和様)書道，かな書道，日本書論，和歌と書式

研究紹介

書道と一言で言っても、大きくは、中国と日本の書道の二つに分けることができます。また、漢字、かな、漢字かな交じり文、篆刻、刻字といった、扱う文字の種類や題材による表現方法の違いからも研究分野を区分することができます。さらに、学校教育の中で行われる内容について見てみますと、「書写」と「書道」という分野の違いによる分け方もあります。

「書写」は、小・中学校の国語科の一分野に位置づけられ、「話す・聞く・読む・書く」といった言語コミュニケーションの中の「書く」にあたる、文字を用いて自らの思いを表現するための方法についての内容を取り扱います。文字を書くことによって、他人と適切なコミュニケーションをとるためには、相手が見て分かるように、正しく文字を書くことが必要となります。そうした、書字能力をつけるために行われるのが、国語科における「書写」です。それに対して、高等学校の科目である「書道」では、文字を題材として、自らの芸術性を自由に表現する能力を学んでいくものです。そのため、「書道」は芸術科の科目として位置づけられています。このような違いに基づいて、学校教育の中で、どのように文字を書くことが取り扱われるべきかを研究するのが、書写書道教育です。

芸術としての「書道」について、もう少し詳しく見てみますと、漢字を題材とした書道は、古来から中国で行われてきている「唐様書道」と、平安時代中期以降に、日本風の書き振りにアレンジされた「和様書道」があります。また、日本においては、日本独自の文字である「かな文字」が発生し、和歌などを書く際に用いられました。和歌を書くのに適した、柔らかな書き振りには、文字をつなげて書く「連綿」という方法が生まれるなど、さまざまな表現が発展しました。かな書道の研究においては、一字一字の文字について見ていくだけではなく、文字や行の配置方法や、用いられた紙などとの関係についても細かに分析して「かなの書美」について考察していきます。

このほか、書論の研究では、中世ごろ以降の能書家や国学者などが書法について説いた文献資料を読み解き、さまざまな書の表現方法に関する諸説について探究しています。